



## 介護の本質から 実践に活かす力を育む

2015年11月5日、『介護現場の課題の解決へ向けて』介護の本質から実践に活かす力を育む』と題した第1回介護福祉指導

できない問題を持ち寄って話し合う講座です。最終的には、職場へ戻って実践できることをめざします。異なる立場の人や同じ悩みを抱える人と話し合うことで、解決の糸口が見つかることがあります。介護の本質を考えながら、実

## 転期に立つ経営の視座③ 介護現場の 課題の解決へ向けて

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

教育推進機構研究会が行われ、柴田範子氏(同機構理事・特定非常利活動法人楽理事長)が講師を務めた。

開催案内にある「あなたの職場の課題をみんなで話し合ってみませんか?」の問いかけに加え、「日ごろ職場でひとり思い悩み、解決

できない問題を養います」の呼びかけ文に関心が湧き、足を運んだ。受講者には、介護福祉の教育、指導をしているなかで課題となっていること(例:指導の方法、職場の人間関係、自己の成長、その他)その理由を具体的に記述することが事前に求められ、「個別の指導

がなかなかできない」「課題抽出ですらスタッフの困りごとになる」「受け身でしか聞いてもらえず、締切日を設けても守られない」など「職員の指導方法」に悩む現場管理者等が集った。

開始早々、講師からファシリテーターを任せられ、自らが抱える課題について具体的な意見を出し合い、課題に共通するキーワードや原因・要因を抽出しながら課題解決に向けた改善策について話し合う時間を共有させていただいた。

### 課題が生じていることに 気づかない人がいる

課題解決の言葉を紐解くと「課題は、課せられた課題のこと。解決は、問題やもつれた事件などを、うまく処理すること」であり、「問題は、問いかけて答えさせる題」であると辞書にある。

介護現場の課題解決へ向けて取り組むためには、「課題が生じていることに気づかない人がいる」ことを知りながら、ただ手をこまねくだけの管理者への助言が必要だ。

課題に気づかない人への対策として、「課題を与えること」から始めてみるのも一つの方法である。

ポイントは、「課題に気づいてもらう」ことであり、「課題は、これだ!」と指摘しながら「目の前に与えられた課題を着実に解決させるクセを養う」という指導方法を管理者自らが身につけること。

課題に関心を持つことができる人は、多くの物を見て、聞いて、体験しているのです。その分、正常と異常に気づくことができる。だが、全員がそうではない。

「物事に関心を持ちなさい!」の一言を繰り返したところで、意識が変わる人は少ない。

小さな課題を深く、ていねいに考えるクセを身につけることを諦めずに続けること。

まずは、「目標—現在⇄課題(目標から現在を引き算することで課題が見えてくる)」\*1という考え(公式)を話し合ってみることを大事にしたい。

「そうか、なるほど!」と、自らが解決のヒントや糸口等を見つけていくことができたら、あとは「か(紙に書く)・き(希望をもつ)・く(口にする)・け(決意し継続する)・こ(行動に移す)」\*2の有言実行あるのみ。

思い立ったが吉日。

\*1『99の言葉の杖』(日本医療企画、p64-65、p180-181、p208-209) \*2『99の言葉の杖』(日本医療企画、p94-95)